



第15号（卒業生用特別号）

学校だより **けやき**

平成30年3月12日  
宇都宮市立上河内中学校  
発行責任者 校長 西原 良一



# 卒業おめでとうございます

3月の今頃にしては少し寒い日になってしまいましたが、それでも着実に春の訪れが間近なことを感じさせる今日、皆さんは、宇都宮市立上河内中学校を無事、卒業します。「卒業、おめでとうございます。」

今の私の思いを正直に言えば、「皆さんと1年間しか上河内中学校での時間を共有できなかったことがとても残念でなりません。できることなら、皆さんには、この先もこの学校に居てもらって、もっといろいろなことを共にやってみたかったし、校長として、たくさんのことを話したかった。」

しかし、皆さんの時を停めることはできないし、皆さんにとっては、今日は、新しい世界に羽ばたいていく日なのですから、校長としては当然喜ぶべきなのでしょう。ですから、心から皆さんの卒業を心から祝福します。そして、たくさん話したいことの内の三つを卒業式の式辞の中で皆さんに伝えます。少し長い話になってしまうと思いますが、我慢して聞いてください。（実は最初の式辞の案はもう少し短かったのだけど、福嶋さんの「答辞」が12分ほどの長さだと聞いて、それに張り合って長くしてしまいました・・・）

それと、どうしても皆さんに伝えたいけれど、せっかくの卒業というお祝いの日に、こんなことは式で話したくないので、ここに書きます。

以前朝会で話したことがあることですが、浄土真宗の開祖親鸞上人が詠んだ歌

明日ありと思う心の仇桜 夜半に嵐の吹かぬものは

この歌を覚えていますか？意味は「明日も咲いているだろうと思っていた桜も、夜のうちに嵐が吹いて散ってしまうかもしれない」というもので、内容としては、死期を宣告されているような人でもなければ、普通、人は明日という日が当然あるものだと思っている。そして、つつい今日という一日を悔いの無いように過ごすことを疎かにしてしまいがちになる。そのことを戒めている歌になります。でも、現実には、7年前の2011年3月11日の朝に一体どれだけの人が、1万人を超える人々の明日が訪れないことを予期していたのでしょうか。15,895人の死者を出し、未だに2,539人の方が行方不明というあの震災が起こることを。もっと言えば、大きな地震があったとしても、これほど多くの犠牲を出してしまうことを恐らく日本中の誰一人予想していなかったと思います。でも、現実には起こってしまいました。それが、再び起こらないとは誰も保証できません。

だから、皆さんには、明日が無いかもしれないという思いで、一日一日を大切に生きてほしいと思います。そして、伝えたい思いはきちんと口にして伝えることも忘れずに生きてください。

まずその最初の行動として、今日は必ず、ご家族に感謝の思いを伝えてください。

